

1 4 つのシナリオ

（１）悪くないシナリオ

- ＊米国と北朝鮮が「非核化と米朝関係改善」に向かう。完全な非核化は無理だが、段階的なプロセスを通じて長期的には状況を改善
- ・北朝鮮は少しずつ非核化措置をとる。
（参考）「非核化」にも長いプロセスと多くの段階がある
- ・米朝共同声明の原文は「**work toward complete denuclearization**」
- ・非核化プロセスの一例：
実験場の一部破壊→原子炉の運転中止→査察受け入れ→核開発の情報開示→核物質の搬出→原子炉、再処理施設、ウラン濃縮施設などの部分的解体→核兵器の破壊・搬出→核施設の全面解体。「核の平和利用」はどうか？
- ・金正恩は経済再建に本気で取り組む
- ・日本への影響—米朝関係の改善にペースを合わせて日朝関係の改善に取り組み、そのプロセスのなかで拉致問題やミサイル問題を解決するチャンス

（２）危機再燃シナリオ

- ＊北朝鮮が十分に非核化を進めず、米国が態度を硬化させ、危機が再燃
- ・過去の北朝鮮をめぐる軍事的危機は、対話「後」に発生
例：1994 年 5 月の危機。2006 年 10 月の第 1 次核実験
- ・徐々に、どちらが「勝ち」、どちらが「負けている」かが明確に
→負けている方は何かせざるを得なくなる
- ・金正恩は合理的アクターであることが判明
→「鼻血作戦」の実施などの軍事オプションの有用性は向上
- ・ポンペオは 2021 年 1 月を「期限」に設定。スキャンダルまみれのトランプ大統領が政治的危機を乗り切り、支持率を上げるための方策は？
- ・日本への影響—朝鮮半島で軍事危機が再燃すれば、日本も巻き込まれるリスクが増加。東京オリンピックの開催にも赤信号

(3) 「危険な平和」シナリオ

* トランプが「朝鮮半島和平」を口実に、在韓米軍の削減など、韓国への防衛コミットメントを縮小（トランプは本来、孤立主義者）

* 日本の政策担当者が最も恐れているシナリオ

・ ボブ・ウッドワード『**FEAR** 恐怖の男 トランプ政権の真実』の冒頭に出てくる逸話

・ 首脳会談でいつも金正恩の隣に座っているのは？

・ 韓国の現政権がこうした動きに反対しない可能性

・ 長期的な影響は？

→米韓同盟弱体化→北朝鮮の対韓挑発行動の活発化→朝鮮半島情勢の不安定化・混乱。中国の韓国揺さぶりの活発化→韓国が中立化あるいは中国の勢力圏に編入

・ 日本への影響？

→プラス面：韓国防衛の負担が減少（より重要な中国への対応にフォーカスできる）。韓国が米国や日本との安全保障協力の重要性を再認識する可能性

（参考）日本は韓国の防衛に重要な役割を果たしている。

①米軍への基地提供、②有事には自衛隊が韓国のために戦う米軍を支援

マイナス面：朝鮮半島情勢が不安定化し、長期的に韓国が中国の影響圏に入るリスクが高まる

(4) ゴルバチョフ・シナリオ

* 金正恩が本格的な経済社会改革を進めた結果、北朝鮮が不安定化

・ 新興勢力が台頭し、政治・経済・社会の秩序が変化。北朝鮮は混乱し、不安定化、場合によっては崩壊

・ 日本への影響—平和的かつ核のない朝鮮半島の統一につながればプラス。朝鮮半島が大混乱し、内戦状態になるなどすればマイナス

Q それぞれのシナリオの蓋然性は？

Q 5 つめのシナリオとは？

2 日本の対応

＊「悪くないシナリオ」が実現するよう努力しつつも、悪いシナリオに行った場合への備えを継続

(1) 拉致問題への取り組み（「悪くないシナリオ」に行った場合への備え）

＊原則的立場—①北朝鮮は核やミサイルを放棄し、拉致問題を解決する。②日本は北朝鮮と関係改善し、経済援助を提供する。

・2002年、日朝平壤宣言：小泉総理が金正日に会い、核、ミサイル、拉致問題解決と、日朝関係改善と経済援助の取引を持ちかけた。

→5人の拉致被害者が帰国。しかし、それ以外の問題がこじれて失敗

・2014年、ストックホルムで日朝協議。拉致の再調査で合意

→しかし、具体的な成果なし

・2018年、米朝首脳会談

→今後、北朝鮮の核問題をめぐる対話が始まるか？

→日本は拉致問題をどのように解決するか？

同年7月に北村滋内閣情報官が北朝鮮担当者と会談。11月、拉致問題担当相の菅義偉官房長官が特定失踪者家族会と面会

・一括解決か段階的解決か？

→2002年の小泉訪朝時のようなビッグディールではなく、段階的なプロセスの方が良い。

∴①北朝鮮は、2002年に日本に騙されたと認識

②「一括解決」の難しさ

実際には何人の日本人が拉致され、何人が生存しているか不明

→北朝鮮が生存者を全員返したとしても、本当に全員なのかどうか不明

(参考) 北朝鮮は、2014年に田中実さんと金田龍光さんという二人の拉致被害者が生存していることを示唆したとの報道あり

(2) 安全保障上の取り組み（悪いシナリオに行った場合への備え）

・2017年末現在、北朝鮮は核兵器14～33個分の核物質を保有と推定（プルトニウム30kg、濃縮ウラン230～760kg）。2020年までに24～48個分に増えると推定

・日本に届くノドン・ミサイル200発以上と移動式発射台を約50両配備。射程は約1,300キロメートル。日本までの飛行時間は10分程度

→北朝鮮は日本を核攻撃する能力をもっている可能性がかなり高い。

・日本による3つの軍事的対応

①ミサイル防衛

a) 海上配備型上層システム＝イージス BMD 艦＋SM-3 Block IA ミサイル

b) 地上配備型下層システム＝ペトリオット PAC-3 ミサイル

- 現在、能力向上型の PAC-3 MSE (Missile Segment Enhancement)を導入中
- ・ さらに SM-3 Block IIA、Aegis Ashore の導入を決定済み
- ②国民保護（＝市民防衛、民間防衛）
- ・ 2004 年、国民保護法成立（韓国では 1975 年に民防衛法が成立）
- 緊急情報ネットワークシステム（Em-Net）や全国瞬時警報システム（J-Alert）を導入。2014 年からは弾道ミサイル発射時にも携帯電話等に緊急速報メールを送信
- ・ 2017 年、秋田県男鹿市で初の弾道ミサイル対処訓練（2018 年に当面中止）
- 今後の課題＝ボイスメッセージの聞き取りやすさ。ボイスメッセージの内容の修正。人口の多い場所での訓練。外国語メッセージ
- ③敵基地攻撃能力の保有
- 今回の「防衛計画の大綱」には盛り込まれず。但し、能力上は保有に向かう。

（以上）